

今日のトピック 2000年来の水準を回復した日経平均株価 「円安」、「流動性」がフォローの風に

ポイント1 一時1万9,000円を超える

2000年4月以来の水準

- 日経平均株価は、3月12日の日中に1万9,008円13銭と、2000年4月19日(終値)以来、実に約15年ぶりに1万9,000円台を回復しました。
- 2月の下旬以降、1万8,600円から1万8,800円台での推移が続いていましたが、外部環境の好転から高値を追う展開となりました。

ポイント2 景気に明るい兆し

過剰流動性を呼び込む

- 11日に発表された1月の機械受注は前月比▲1.7%と、予想(同▲4%、ブルームバーグ調べ)を上回るなど、基調の強さが裏付けられました。また、厚生労働省の労働経済動向調査によれば2月は人手不足感が過去最高に達するなど、景気に明るい兆しがうかがえます。加えて、円ドルレートが2014年12月以来の121円台となったことも追い風となりました。
- こうした景気の好転期待を背景に、3月9日から開始されたECBの量的金融緩和をきっかけとした世界的な過剰流動性が日本株に集まった可能性も指摘されています。

今後の展開 業績の好調さを評価する 市場環境が続く

- 日経平均株価が1万9,000円台で推移した2000年頃はIT(情報技術)バブルと呼ばれた局面で、PERはおおよそ70倍から100倍でした。足元では17.4倍と、株価にバブルが発生しているわけではありません。過剰流動性の増加により変動性が増す可能性はありますが、2015年度の経常利益は過去最高益を更新すると見込まれ、業績の好調さを評価する市場環境が続くと考えられます。



(注) データは2000年1月4日～2015年3月12日。

(出所) Quick Astra Managerのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注) データは2000年1月～2015年3月の各月末(2015年3月は11日)。

PERは株価÷1株当たり利益。日経予想ベース。

(出所) Quick Astra Managerのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも チェック!

2015年03月10日 明るさ増す「街角景気」(日本)

2015年03月06日 ユーロ圏の金融政策(2015年3月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。